経済産業省

資料2－9

風評払拭・リスコミ強化戦略のフォローアップについて

令和３年４月２２日

経済産業省

大臣官房福島復興推進グループ

風評払拭・リスコミ強化戦略のフォローアップについて

戦略における記載

1.知ってもらう

(5)被災地の不安払拭に向けた取組

①相談員等による相談対応の強化

これまでの取組①

◆平成29年8月24日、「平成29年度相談員等実務者会合」を環境省と共催。相談員体制の強化に向けた課題提起がなされた。

◆その際、武藤原子力災害現地対策本部長(経産副大臣、当時)より、現場で活動する相談員等の連携の場として「相談員合同ワークショップ」立ち上げの指示があった。

◆「相談員合同ワークショップ」は、平成29年12月27日に第1回を開催。直近では令和元年11月に実施しており、これまで計５回開催している。

【ワークショップ開催概要】

・構成メンバー：国、県
市町村（職員、相談員）、社会福祉協議会
放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター
有識者
（※主催：環境省・内閣府支援チーム）

・議題：
〇会議趣旨・現状説明（環境省、支援チーム）
〇活動紹介（資源エネルギー庁）
〇有識者の講演
〇グループディスカッション

これまでの取組②

◆参加者からは、
・業務の明確化、分担、他部署、他機関と連携が必要
・放射線に関する不安を表出しやすくするためにも、日常会話等のコミュニケーションから信頼関係を築くことが大事
・本当に情報が必要な住民へのアプローチが難しい
・各自治体は住環境を整えつつ、若い世代や新しい住民をどう取り入れていくかを考える必要がある
などの意見が出た。

今後の取組方針

◆これまで実施したワークショップでの議論を踏まえ、相談員等による相談対応の強化に引き続き取り組む。

◆各地域の復興状況を踏まえ、ワークショップの内容を検討する。

第4回の議論の様子

第5回の議論の様子

広報動画やWeb記事を活用した情報発信①

- 福島の生活環境整備の進展、復興に向けた主な動向についての動画を作成しYouTubeで公開。
- 訪日外国人観光客向けのWebメディアである「MATCHA」と連携し、福島県の食の魅力などを伝える５つの広報記事を全８言語（日本語、英語、中国語（繁体字・簡体字）、タイ語、韓国語、インドネシア語、ベトナム語）で作成、Web上で公開。

広報動画（日・英）

「Fukushima2020」

2020年3月の難指示解除やJR常磐線全線運転再開など、復興へ向けた大きな一歩を始め、福島の産業の再生、生活・なりわいの再建の様子や地域の魅力などを伝える。同内容で日本語版、英語版をそれぞれ作成。

Web記事（多言語）

Fukushima Today
（福島特集ページ）

極上食材×料理×お酒！究極のペアリングに出会う福島の旅

1泊2日で絶景とグルメを巡るには？レンタカーと鉄道の場合

自然の神秘を味わえる福島県の鍾乳洞・あぶくま洞を探検しよう！

福島県の今ー被災地を巡る1泊2日ツアー

福島県田村市で日本らしい田舎の自然に触れてみよう

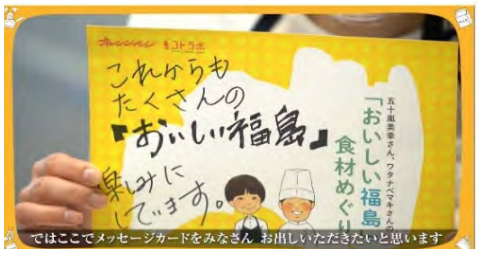
甘くて濃い！究極の自然農法で作られる「福島野菜」を食べに行こう

広報動画やWeb記事を活用した情報発信②

- **<u>シェフ・料理研究家</u>**が、①自ら現地訪問して生産者の想いを伺いながら食材を調達する模様、②その食材を用いた料理講座（オンライン）の模様を、**動画で撮影**する。
  - 五十嵐美幸氏（**人気中華店の有名シェフ　メディアにも多数出演**）ワタナベマキ氏（**20代～30代女性に人気手軽な料理が得意**）
- 料理教室参加人数は**<u>20名（計40名）</u>**うち**<u>2名（計4名）はインフルエンサー</u>**を起用。
- 料理講座終了後、参加者合計約40名に対して福島に対する印象の変化についてのアンケートを実施。生産者との対話および実際に食材を調理して食することによって、**福島に対する印象が向上**した。

生産者のものとへ現地訪問・食材選定

オンライン料理講座・生産者との交流

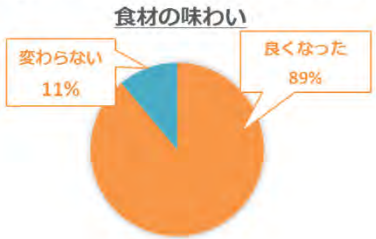


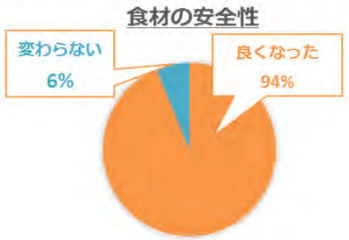
料理雑誌への掲載、インフルエンサーによる発信

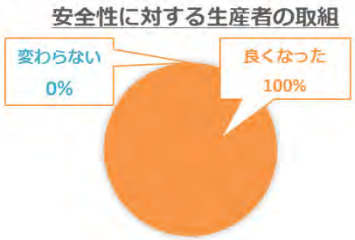
▼『オレンジページ3/2号』2/17発売

雑誌読者・動画視聴者アンケート（抜粋）

Q.このたびのオンライン講座を通じて「福島」に対する印象は変わりましたか？



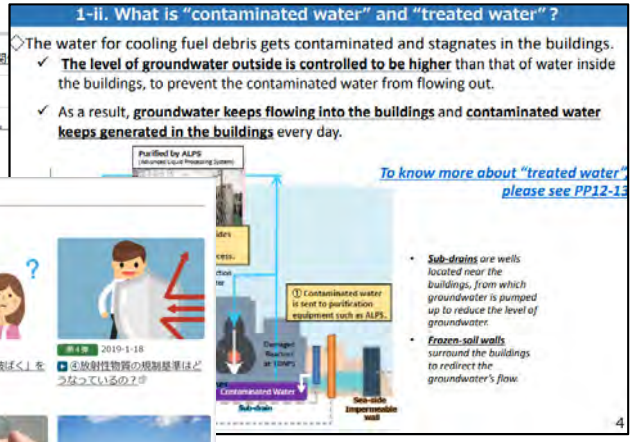




福島第一原発の廃炉・汚染水・処理水対策に関する情報発信

- 福島第一原発の現状や廃炉・汚染水・処理水対策の進捗についての情報をポータルサイトにて公開。特にALPS処理水に関する情報などについて、Q&A形式、理解を得やすい解説資料、連載記事、動画やパンフレットなど、多層的なコンテンツを用いて掲載。
- 地元との不安を解消するため、県内高校生への授業や、地域のイベントへのブース出展を行い、双方向のコミュニケーションによる情報共有を実施。

ポータルサイトでの情報発信（日/英で掲載）



地元での廃炉コミュニケーション

外国政府・プレス等に対する広報活動

- **在京外交団担当者を対象**に、外務省と協力し、 ALPS処理水に係る現状及びALPS小委の概要に関する**「在京外交団ブリーフィング」**を実施。(2020年2月及び2020年4月)
- **WTO衛生・植物検疫(SPS)委員会**(2020年6月オンライン開催)において、福島第一原発事故後の日本産食品の安全性に関する状況のアップデートとして，日本における食品モニタリング結果，さらに**福島第一原発の汚染水対策などについて**紹介。
- 外国プレスに対しては、経産省・東京電力合同で、毎年、**「外国プレス向けブリーフィング」**(2020年2月)を実施。汚染水を含む福島第一原発廃炉全般に係る情報提供。
- その他、各国政府との**二国間委員会**、海外での学会や専門家会議等を活用し、福島第一原発の廃炉・汚染水の状況等について説明。

在京外交団ブリーフィング
（2020年2月）

国際機関との協力

●＜国際原子力機関（IAEA）＞

・第４回IAEAレビューミッションを受入れ(2018年11月)。最終報告書を2019年1月に受領・公表。
・上記ミッションのフォローアップとして、ALPS処理水に関する小委員会報告書(2020年2月公表)に対する**IAEAフォローアップレビュー報告書**を2020年4月に受領・公表。
・**IAEAグロッシー事務局長が来日**し、福島第一原発を訪問。(2020年2月)
・**第６４回IAEA総会**(2020年9月　於：オーストリア・ウィーン)において、
　→日本政府代表演説にて福島第一原発の現状と処理水の取扱いについて説明。
　→**福島第一原発の廃炉・除染にかかるサイドイベント**をオンラインで開催。参加者は各国より300名以上。
・**IAEAウェブサイトでの情報公開**(サブドレンの状況 (毎月１回)、包括的情報(四半期に1回))

IAEAグロッシー事務局長の福島第一原発訪問
（2020年2月）

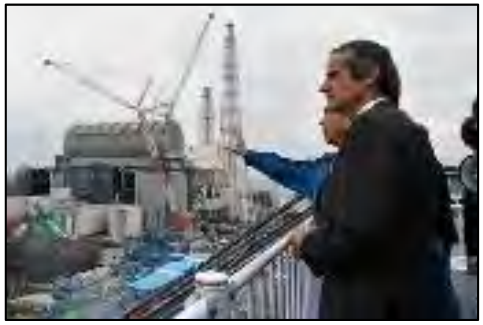
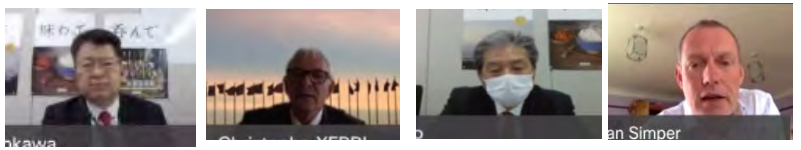


Photo Credit: Dean Calma / IAEA

第６４回IAEA総会サイドイベントの様子
（2020年9月）